

ごとう通信

第 73 号

平成 19 年 1 月 5 日

皆さん、明けましておめでとございます。本年も、皆様と私たち「ふれあい歯科ごとう」にとつてすばらしい年になるようお祈りしています。さて、今年の年末年始はとにかくバタバタとしておりました。と言うのも、例年、大晦日まで訪問診療をしても正月三が日に何とか立て直して新年の診療を開始するパターンでしたが、今年は広島の実家に帰省することになったからです。とにかく年内にやらなくてはならないことも全て置いて帰省しました。おかげでこの「ごとう通信」も五日発行です。このような強行軍にしてまで帰省した理由はただ一つ、三日に高校時

代の同窓(期)会があったからです。高校卒業から二十三年、ほとんどの人は卒業以来の対面でした。同級生二百五十人中約百人が集まり、本当に楽しい会となりました。広島で活躍する人間が多い中で「新宿で歯医者をやっている」というだけの理由で

(!) 出世頭として登壇させられ、思わぬ形で今年(後)の抱負を発表することになりました。



そこで宣言したのは二つです。一つは、「口から食べる」ことが大切であるということ。社会に向かって発信すること。そのために僕がパーソナリティーを務めているラジオ番組や講演会、さらには今春出版予定の本などできっちり訴えていこうと思

っています。

もう一つは、「歯医者



はかっこいいんだ！」ということを若い世代、学生に伝えていこうと思います。かつて「歯医者になると金持ちになれる」「ベンツに乗れる」などというつまらない価値観で若者たちを歯学部に取り入れた時代がありました。しかし、景気が悪くなり、収益が減った歯医者たちは「歯医者なんてダメだ」と手のひらを返したような言い草で悲観ばかりしています。そうではないんだ、人間にとって、そして生きるためにも重要な「食べる」という機能を支える仕事はともかっこいいんだ！ということ。若者たちに訴えていこうと思います。今年から母校に加えて東京医科歯科大学でも講義の機会が得られそうで